

2025. 6. 10 好きを通して、遊び、そして世界が広がり始める

先日の好きな遊び、M子はいつも通り「つばめ見に行こうよ！」と汽車ポッポ広場へ。ツバメが気になって仕方ない様子。ツバメの服とマントをつけ、ツバメパトロールに行く子供たち。

「パトロールするための望遠鏡がほしい！」ということで、筒にハートなどの切り紙を貼り付け作り始めたM子。それを見ながら、W子らも作り始める。

パトロール中、Y男の胸に鳥のマークがあることに気付きます。Y男はサッカー大好きで、このユニフォーム自体も大好きです。

そして、教師も一緒に見ながら、「ここに鳥のマークがついているのもかっこいいよね！」と声をかけます。「パトロールの人がつけるツバメのワッペン作ってみる？」と投げかけます。すると、M子はじめ、そこにいた子供たちは「つくってみたい！」と集まり始めます。

教師は急遽、ホイルカラー工作紙を用意し、あらかじめ用意しておいたツバメのイラストを出してきます。子供たちは自分のお気に入りのホイル工作紙に貼り、周りにキラキラシールを貼り始めました。そして思い思いのツバメワッペンができると、胸や肩につけとても嬉しそうでした。

週明けの月曜日の朝の会、教師は「ヤタガラス」の画像を見せながら、子供たちに紹介をします。

「これ足三本あるよ！」「これは伝説の鳥らしいよ！」

「なんでサッカーの服についてるの？」「これはどうやら勝つ神様らしい！」「サッカーの神様ってこと？」

「そうかもしれないねー！」「伝説」とつuit瞬間、数名の男の子たちはすでに夢中になっています。

朝の会が終わると、すぐにヤタガラスのワッペンを作り始める子が。

ツバメワッペンの作り方を子供たちなりに参考にして、自ら作っていき、つけていきます。

「この神様つけたで、サッカーうまくなったかな？サッカーボーリングしようよ！」と以前遊んでいたボールでペットボトルを倒すサッカーボーリングを楽しみ始めます。「当たった！やっぱ神様ついてるでやわー！」と嬉しそうな子供たち。次第に蹴るだけじゃなく、ボールを投げ始める子も出てきます。

「これはボールの神様なんだよねー！」それぞれにヤタガラスに対する価値観も生まれはじめます。

ツバメとの出会いからツバメに様々な角度から関わり、遊び、興味を広げてきた子供たち。だからこそ気付くヤタガラス。ワッペン作りへつながり、ヤタガラスの意味を知ること、ボール遊びへと広がる子もいました。子供たちなりに世界を自由にひらいていきます。

昨日は雨の一日でした。朝の会で本日のツバメの巣の中の様子を共有していると、「もう赤ちゃんじゃないよね！」

「もう飛べるんじゃない？」「でも飛んではまだ見たことないよ！」「そもそも雨の中はツバメ飛べないよ！」「いや、飛べるよ！」とミニ論争に。

「だって、羽が濡れたら飛べないでしょ！虫はそうだよ！」と自分の今までの知識と重ねる子。

「外、見に行こうよ！」「ほら！今飛んでたよ！」「あれはたまたまだよ！」「どっかで羽をぱっ！ぱっ！って乾かしてるよ！きっと」目の前の事実からさらに自分なりの予想を立てていきます。

ツバメを通して、なりきって遊んだり、お家ごっこにつながったり、カラフル卵を作ったりとイメージの世界を重ね合わせながら自分たちなりに楽しんできた年中児。日々ツバメと関わる中で、最近少しずつその生態やリアルな部分にも興味が広がりつつあります。知の部分に迫ってきているようにも感じるのです。それは子供たちなりに多様に関わり好きになっているからこそ、自然と気付き始める、興味をもち始めることなのかもしれない。そのことでより遊びも広がり、豊かな体験へとつながっていきそうな予感がしています。

